

2014 仙台大会 報告レポート

10月25日(土)～26日(日)に、宮城県大崎市古川の新江合川緑地公園陸上競技場にて、東北リーグ2014・第12回宮城県フライングディスク協会杯仙台アルティメット大会が開催されましたのでご報告致します。

今大会も株式会社クラブジュニア様、株式会社ディスクヴィレッジ様にご協賛頂きまして誠にありがとうございました。当日は2日間を通して晴天で風も無く、アルティメットをプレーするにあたって絶好のコンディションとなりました。

以下に各チームの順位、及び個人賞や仙台大会特別賞の受賞者と賞品を掲載致します。是非ご覧ください。

《各チームの順位と贈呈された賞品》

- 1位：山形大学庄内 KOZOH (優勝トロフィー、ディスクヴィレッジ様協賛品、ディスク3枚)
- 2位：U.C.Phantom (シリコンウォッチ 人数分)
- 3位：3/4 (クオカード5,000円分)
- 4位：C3 (メディカルセット4,500円分)
- 5位：山形大学さくらんぼーず (仙台ご当地即席麺 人数分)
- 6位：ふかひれ (仙台銘菓 喜久福)
- 7位：秋田大学 BLITZ (メディカルセット3,000円分)
- 8位：まつりびとドリーム (ビブス10枚)
- 9位：ディスクヴィレッジ (缶詰 人数分)
- 10位：meli-melo (さとうのごはん 人数分)
- 11位：仙台大学 Energista (レトルトカレー 人数分)
- 12位：vahul (ブタメン 人数分)
- 13位：岩手大学 RASIS (ブルーシート)
- 14位：RUDE-ore (ホッカイロ30個)
- 15位：東北学院大学 Unchain (エナジードリンク 人数分)
- 16位：東北大学 Albatross (ディスク2枚)

優勝チームである庄内 KOZOH の皆さんには、優勝トロフィーとアルティメットディスクが3枚、更にディスクヴィレッジ様からの協賛品であるお米20kgが贈呈されました。皆さんはそれぞれ賞品を手にし、優勝の喜び溢れる笑顔でした。「東北リーグ最終戦の締めくくりとして良い大会になった」という気持ちがこちらにも伝わってきました。

《各個人賞の受賞者、及び賞品》

MVP: 山形大学庄内 KOZOH 須崎竜也(クラブジュニア様協賛品 USA 昇華転写シャツ)

敢闘賞: U.C.Phantom 嵯峨大輝 (クラブジュニア様協賛品 GAIA ULTIMATE shorts、ディスク 1 枚)

総合男子: U.C.Phantom 嵯峨大輝 (WCUU2014 ハーフパンツ)

総合女子: ふかひれ 蔦澤勝美 (WCUU2014 ディスク、スノーピーロングスリーブ)

シュート男子: 3/4 川村綾 (ネックウォーマー)、山形大学さくらんぼーズ 目黒守 (ディスク 1 枚)

シュート女子: ふかひれ 蔦澤勝美 (ネックウォーマー、ディスク 1 枚)

ゴール男子: 山形大学さくらんぼーズ 鈴木淳紘 (Logos 折り畳みイス)、C3 仲村直博

ゴール女子: ふかひれ 蔦澤勝美 (Logos 折り畳みイス)

ブロック男子: RUDE-ore 村上陽太郎 (昇華パンツ)

ブロック女子: 岩手大学 RASIS 佐々木琴瑞 (昇華パンツ)、U.C.Phantom 弓田恵里香、まつりびとドリーム 高木みな、3/4 薄井あゆみ、仙台大学 Energista 畠山裕華、東北大学 Albatross 佐藤春菜

株式会社クラブジュニア様の協賛品は、USA 昇華転写シャツが MVP に選ばれた庄内 KOZOH の須崎さんに、GAIA ULTIMATE shorts と、更にディスクが U.C.Phantom の嵯峨さんにそれぞれ贈呈されました。受賞された皆さんの表情は、喜びと達成感でいっぱいでした。

《仙台大会特別賞、及び賞品》

ベストドレッサー賞: ふかひれ (ミサンガ 人数分)

ユニフォームが最も色鮮やかで目を引き、お洒落なチームに贈呈されました。

白熱ゲーム賞: ディスクヴィレッジ&meli-melo (激辛カレー)

最も点差の小さく、且つ両チームの得点の合計が 1 番多かった白熱した試合をしたチームそれぞれに贈呈されました。

実行委員長賞: 3/4 (仙台地酒 浦霞)

急造のチームにも関わらず、素晴らしい連携で楽しくプレーをしていたチームに贈呈されました。

(敬称略)

今大会は参加チームが 16 チームで参加人数が 253 人と、ともに過去最高を記録し、募集チーム数を申込数が上回ったのも仙台大会では初でした。初参加となった、日本全国各地の方が集まった meli-melo の皆さんや、岩手・宮城・秋田の 3 年生によって今大会のみの結成となった 3/4 の皆さんに加わって頂いたことにより、大会は更に盛り上がりを見せました。

決勝では、優勝を勝ち取った庄内 KOZOH の皆さんは積極的なオフェンスと、マンツーマンディフェンス・ゾーンディフェンスを使い分けながら相手チームを翻弄するプレースタイルが非常に印象的でした。中でも MVP を受賞された須崎さんは、抜群の体力とロングシュートでオフェンスの要となり、司令塔として活躍していたように感じられました。一方敢闘賞を受賞された U.C.Phantom の嵯峨さんも、チームにオープンが少ない状況で精力的に動き回り、上競りでの強さを発揮し、安定感のあるプレーをしていました。

当日は、参加されている方のほとんどが笑顔で楽しそうに過ごしていたように感じました。試合も接戦が多く、非常に盛り上がりを見せていました。遠くからお越し頂いた方々も、最後まで楽しんで帰って頂けたのではないかと思います。また、仙台大会の特徴は、チーム賞の賞品が全チーム分用意されている点です。閉会式での参加者の皆さんの様子を見たところ、様々な賞品を手になされて最後まで笑顔でいてくださっていたのが、非常に印象的でした。

私は今年 5 月に行われた第 5 回東北学生アルティメット大会で書記を務めさせて頂きましたが、今大会では実行委員長として運営にあたりました。初めての運営ということで、『今年度の東北リーグ最後の大会として相応しいものにする』ことを目標に定め、取り組んできました。大会に向けての準備期間では、仕事内容が全く異なる為戸惑うことも多く、常に各委員の仕事の進捗状況を把握し、指示を出すということがどれだけ重要かを痛感しました。しかしそんな中で、先輩方のサポートもあり、実行委員はてきぱきと動いてくれました。

今回は当日の朝にコート設営をすることになり、宮城県の学生の皆さんに協力して頂きましたが、その際の役割の分担・組み分けをスムーズに行うのが少々難しかったように思います。運営に関して、「試合前のコールが聞き取りづらくなってしまった、疎かになってしまった」「忘れ物の確認は閉会式で一度全員に確認すべきだった」等、多くの反省点が見つかりました。実行委員会内で意見を出し合い、改善策を協議し、来年度以降の運営に役立てていく所存です。賞品などに関しまして若干のトラブルはありましたが、ディスクヴィレッジの渡部貴人さんや選手として参加されていた株式会社クラブジュニアの遠藤さんに迅速な対応をして頂いたことにより、運営は最後まで比較的スムーズに進めることが出来ました。

最後になりますが、今大会は実行委員を影からサポートして下さった多くの社会人の方々をはじめ、宮城の学生の皆さん、実行委員のご協力・働きによって成功を収めました。当初に設定した目標は、無事達成されたものと感じております。改めて、ご協賛頂いたことに厚く感謝を申し上げます。来年度以降の大会も是非、宜しくお願い致します。

以上でご報告を終了させていただきます。

仙台大会実行委員長 千葉遼太郎